

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191800016		
法人名	株式会社SOYOKAZE		
事業所名	土岐ケアセンターそよ風 グループホーム(1階)		
所在地	岐阜県土岐市肥田浅野元町2丁目24番地		
自己評価作成日	令和6年11月10日	評価結果市町村受理日	令和6年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action.kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191800016-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action.kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191800016-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地		
訪問調査日	令和6年11月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム単体という考え方ではなく、併設しているデイサービス・ショートステイのお客様にもワンストップサービスとして安心してご利用頂けるサービスとなるように努めている。職員全員に兼務発令を出し、どの部所でもサービス提供が行えるように指導している。その為顔馴染みの職員が増え、交流も楽しみとなっている。自然に囲まれた環境で、散歩などの外出も楽しんでいる。中庭を活用した花や野菜作りでは、お客様が中心となって育て方など教授頂きながら、収穫の喜びも分かち合っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者に普段から丁寧に寄り、思いや気持ちを引き出し、施設理念に基づいて、職員一丸で支援している事業所である。身体を動かす事や、レクリエーションを楽しむ時間をもう少し増やしたいという職員の意見があり、管理者と話しあった。その結果、業務内容見直し等を行ったことで、余暇活動の支援に職員が対応する時間が多く持てるようになった。「そよ風文化祭」では、利用者が得意な書道や絵画の腕を思う存分発揮する場となり、表彰を受けることで、また来年もみんなで取り組もうと利用者が楽しみを持ち、活動的に過ごすことが出来ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、生き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	何年も同じ理念を通しており、職員への浸透もある。毎月のミーティングでは意味を深掘し更に理解を深めるよう努めている。	職員ミーティングで唱和している。管理者はカンファレンスで、年上である利用者を敬い、話し方に気を付けながら接するように伝えている。理念にそって利用者の気持ちを尊重したケアをするように、皆で話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	認知症カフェの再開など、少しずつ以前のような状況になりつつある。交流の場があれば積極的に参加していく予定。	市や自治会からの誘いを受け、地域の秋祭りに参加したり、自治会のおみこしが事業所に立ち寄ったりしている。月1回、書道や音楽など近隣のボランティアとの交流がある。散歩に出かけると、挨拶を交わし、お花をおすそ分けしてもらったこともある。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面での会議が再開でき、多くのご家族にご参加頂いている。話し合いも一方通行ではなくご家族からも多くの声を頂くことが出来ている。サービスに反映できるように努めている。	もっとグループホームのことを知って欲しいと考え、地域の色々な職種の方を会議に誘っている。歯科医や老人会から紹介してもらった栄養士などの参加もあった。会議の内容は職員の全体会議で報告している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	直接窓口で話し合うこともあれば、お電話することもあり相談出来ている。	運営推進会議や認定調査の際、市の担当者に相談や、情報交換を行っている。疑問点はその都度市担当者や包括支援センター職員に尋ね、助言をもらっている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度は必ず研修を行っている。センターとしては毎月身体拘束適正化委員会を行っており、職員一人一人の理解を深めている。	身体拘束適正化委員会を毎月開催している。声のトーン、言い方などに注意を払い、毎月の職員会議や研修等で職員同士でお互いのケアを確認している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	適正化委員会の際に、スピーチロック等声かけについても毎回話し合いを行っている。それでも現場での慣れ合いな言葉かけにはその場でお互い声を掛け合うようにしている。	毎月虐待防止の委員会を開催している。車いすにずっと座らせていないかなどを確認し、不適切ケアが虐待に繋がるリスクについて、管理者は職員に会議や研修で説明している。	

土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象となる人はいないが、家族からの相談にはのっている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は特に時間を設け説明を行っている。改正に関しては面会時やお便りでも説明しご理解頂いている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に話しを伺う。利用者の暮らしぶりについて月に一度お手紙を郵送し家族からの意見記入が出来返送可能としている。家族からの要望・質問等には直ぐに対応するように努めている。次回訪問時には報告が出来るようにしている。	年に1回満足度調査を行い、確認した要望等は職員会議で話しあっている。利用者毎に担当職員が毎月、手書きの手紙で家族に普段の暮らしの様子を報告し、意見を言いやすい関係性を築いている。積極的に面会時には様子を直接確認してもらっている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見・提案を出し合える環境にある。カンファレンス等で話し合い、反映させている。	食材購入などの外部サービスを導入することで、個別ケアやレクリエーションも活発に出来るようになった。管理者と職員は一緒にケアをしており、職員の要望を日常的に聞き取り良いことはすぐに導入するようにしている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	人事考課や契約更改時の面談もあるが、日頃のコミュニケーションの中で本音を聞き出すようにしている。その中で個々のモチベーションアップに繋がるように話しをしている。	職員の年齢や働き方によって面談回数を設け、本人の意向や体調にあわせて勤務ができるように配慮している。管理者は日頃から職員ごとの悩み等を把握しており、定期的に法人本社に報告し、就業環境の向上に努めている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のセンター会議の中で研修があり、グループホーム独自でも研修を行っている。各自、意欲を持って挑戦する職員もありシフト調整を行っている。	研修計画を作成し、テーマに沿った外部研修の情報を職員に伝えている。資格取得については法人で補助がある。研修参加後には参加者から感想を確認し、個別や全体での理解度が深まるようにしている。	

土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は自社のグループホーム協議会のみとなっているが、意見交換や勉強会を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長く入居されている方が多く、良い関係が築けている。入浴の時間は職員と1対1であり、普段は話して頂けないことまで沢山教えて下さっており職員を信用し、安心して胸の内など打ち明けて下さっていると認識しています。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で、本人の意向・思いを聞きカンファレンスで情報共有しケアプランに反映させている。自己表現の困難な方も職員本位にならない様注意し、常に観察から読み取るようにしている。	入浴時など利用者がリラックスし1対1になる時に、表情を見ながら思いや意向を確認する。利用者が発した言葉を記録し、職員で共有している。本人のその場の思いは都度変わることを理解し、決定したことを尊重する言葉かけを行っている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人から聞き出すことが可能であれば伺っている。困難な方には家族に確認することもあるが、把握されていないことも多い。日頃のコミュニケーションの中でふと出る話もあり職員で情報共有するようにしている。	本人や家族からは普段の関わりの中から意向を確認し、毎月の職員会議で話し合っている。モニタリングも毎月実施し、変化がないかを職員間の意見交換で確認している。主治医には診察時に意見を求めている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録システムの導入となり、どなたも同じような内容の記録とならないように指導している。気づきや状態については常に情報共有し支援に活かしている。	昼と夜間で記録を色分けし、わかりやすくしている。1日2回申し送りを実施し、その都度記録を確認するように管理者が声をかけている。特に大切な事は、タブレットですぐにさかのぼって情報が確認することができる。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な体調不良や見極めなど自施設他部所の看護師に相談すること、必要時は職員による通院介助も行っている。	法人内にデイサービス、ショートステイがありワンストップサービスである。法人内で合同で行事を行い、入居後も行き来が出来るようになっている。家族が通院支援が出来ない時は職員が対応している。	

土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ前のようなボランティア受け入れを少しずつ再開している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医との関係を尊重して受診頂いているが、その際の受診は家族対応である為、殆どの家族が協力医へと変更を希望される。	入所後は、訪問診察を行う協力医に変更する方が多い。家族同行の通院の際は、普段の様子を書面にして家族に渡している。歯科は希望すれば訪問診療を受けることができる。希望で訪問マッサージを利用される方もいる。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	介護サマリーの提供、情報交換や相談を行っている。入院中にも足を運び状態確認や状態を伺っている。退院後も適切なサービスが出来るよう指導も頂いている。	入院時は家族や病院相談員に病状や回復状態等を確認し、情報交換をしている。出来るだけ早めにお見舞いに行き、直接本人の様子を把握している。家族と病院には、部屋を空けておく期間などを説明している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、重度化や看取りについての説明を申し上げるが、実際近づいた際には再度施設で、出来る事と出来ない事をお伝えしている。状態の変化から気付いた点を早い段階から家族に伝え、思いの確認を重ねている。それに基づいて職員は支援を行い、医師には家族の思いを常に伝えている。	契約時など、早い段階でホームが出来る事と出来ない事を伝え、家族の思いを確認している。食事量低下など状態の変化の際は、直接主治医から家族に説明を行っている。職員は本人の様子を密に記録に残し、家族と共有している。24時間対応可能な訪問看護ステーションと連携し、看取り介護を実施している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の電話連絡、利用者の状態の的確な説明等、日頃から指導している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の年2回実施。消防署立ち会いは内の1回。センター全体でも行い、協力体制の確認を行っている。	夜間想定を含む避難訓練を年2回実施している。洪水に備えた垂直避難訓練も行っている。近隣住民とは交流があるが、避難訓練に参加する機会が持っていない。	普段の地域との関係性を活かし、協力への呼びかけを続けることを期待したい。

土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長く一緒に居るお客様と職員との間柄に慣れ合いが生じがちである。気になった声掛けにはその場で注意をするようにしている。	居室内のポータブルトイレは日中布で覆われ、目につかないように配慮されている。年に1回プライバシーについての研修を行い、特に写真の取り扱いについては普段から管理者が留意している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を大切にすることを指導している。困難な方には表情等を確認し笑顔を引き出せるような支援を行っている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	受け身の方が多いため職員からの提示通りになってしまっている。色々な情報や選択肢を提供しても控えめな方が多い、そのような中でも何か希望が引き出せるよう工夫している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の会話の中から、季節毎の行事にまつわる昔を思い出す話しの中から、一人一人食べたい物、思い出の食事の話が出てきます。出来る限り皆さんの思いに応えられるよう提供しています。	週2回程度、利用者と一緒に料理を作る機会を作っている。誕生日や季節ごとの行事には食べたいものを用意している。中庭で夏野菜を栽培し、食材に使っている。五平餅、からすみ、干し柿、ドクダミ茶なども一緒に手作りしている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量、水分量を記録している。一日分の水分を1L以上を目安に、少ない方には声掛けを行っている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士からの助言・指導のもと、一人一人の口腔内の状態を観察、義歯洗浄の仕上げなど清潔保持に努めている。	毎食後に歯磨きを促し、その後に職員が磨き残しをケアしている。歯科衛生士からの歯磨き方法や口腔内の異常について相談し、必要に応じて歯科医師の診察を受けることができる。	

土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄習慣を把握し、トイレへの誘導を第一としている。オムツになっても本人の意思があればポータブルトイレへの誘導を介助している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に毎日入浴できる体制をとっている。職員と対一の時間であり普段話せない事でもゆっくりと話して下さることも多く大切な時間となっている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は自由にとって頂いている。夜間の安眠確保の為に日中は出来る限り活動的に過ごして頂くように支援している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋には必ず目を通して押印している。新しく処方された薬がある時にはしばらく様子を観察し情報共有したり必要があれば主治医・薬剤師に相談している。	服薬の手順はルールを定めている。服薬しづらい時は、とろみをつけたり、薬剤師に相談したりする。薬に変更があった際は申し送りで、職員に副作用や変化がないかを伝えている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集団生活の中で、遠慮深いのか個々のしたい事を伝えて下さる方は少なく、こちらが会話の中から推測し、サービスにつなげている状態です。	法人全体で毎年開催される「そよ風文化祭」というコンテストに作品を応募し、賞を取る事を励みにしている方が多い。洗濯や掃除、食器拭きなどの得意とする家事と一緒にやっている。部屋で自分の趣味である脳トレなどに取り組まれる方もいる。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なかなか一人一人のご希望を叶えることは難しいですが、併設するデイサービスやショートステイへ出掛け、馴染みの人に会えることも楽しみにされています。散歩は天気と体調を見ながら出掛けています。	季節ごとの花を観に、ドライブに出かける。近所を散歩しながらポストに郵便物を投函したり、自販機でジュースを買ったりする。隣のデイサービスの施設へ行き、顔なじみの方と会えるのを楽しみにしている方もいる。	

土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物はご家族の協力をお願いしております。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は自由です。お手紙はお孫さんやお友達など頂くので返事を書いてみえます。ポストまで歩くという目的を持って散歩に出て頂きます。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和みや温かみを感じて頂けるよう光、音等配慮している。壁面飾りもレクリエーションで毎月趣向を凝らし季節を感じて頂けるようにしている。	毎月季節を感じられる作品と一緒に作成し、リビングの壁に展示している。食事中は穏やかな曲を流し、リラックスできるように配慮している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファ、畳の上などお好きな場所でくつろいで頂けるようにしている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、見慣れた物を持ち込んで頂くように入所時に依頼している。家族(ひ孫)からのお手紙や写真などを飾り、家族と離れている寂しさを少しでも紛らわせることが出来るよう家族にお願いしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名札、トイレ・浴室には認識し易いように張り紙がある。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191800016		
法人名	株式会社SOYOKAZE		
事業所名	土岐ケアセンターそよ風		
所在地	岐阜県土岐市肥田浅野元町2丁目24番地		
自己評価作成日	令和6年9月24日	評価結果市町村受理日	令和6年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action.kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191800016-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action.kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191800016-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地
訪問調査日	令和6年11月5日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で自粛も解禁となりましたが、本年当ホーム内での発症するも迅速に対応、治療を受けていただき重症化することなく軽度で治まり職員の感染症対策の熟知徹底が結果を出せたのではないのでしょうか。お客様も安心されてご近所散歩、グループホーム全体共同行事の再開、ボランティアによるレクリエーションへの参加を楽しんでおられます。各階の暮らしぶりではお客様がそれぞれ得意とされる趣味や特技を生かされて「そよ風文化祭」の出品に励まれる方、それを応援する方、とても良い雰囲気です。食事についてはお誕生日食をはじめ季節感のある食事、おやつを「旬」を基本にして提供させて頂いております。良く動き、食べて、良い睡眠を取って頂きたいと思っております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、生き活きと働いている (参考項目:10,11)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	サービス提供のあり方が会社理念に沿って実践されているか毎月のミーティングで確認を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お客様とのご近所散歩や、地域のボランティアさんとの関わり合いを大切にしている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開き、地域より外部参加者として有識者を招いたりして現在の状況、取り組み、ご家族様との意見交換を公開、サービス向上に活かしている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政からの情報、指導を受け、行政の研修等に参加させて頂き情報交換の場ともさせて頂いている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が禁止対象となる行為を把握している。家庭での暮らしと変わらない自由な生活を送って頂けるよう介助させて頂いている。唯一防犯の為玄関施錠は行っている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	お客様の生活歴、現在の状況を理解する。社内ミーティングで情報共有して活かす。職員の連携により防止の徹底をする。		

土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内外の研修や、フロアミーティング等で学び把握していきたい。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	社内規定によりご家族様へ説明をさせて頂き、相談、疑問、不安を解消されるよう対応させて頂く。入所後も家庭事情等の相談も随時受け付けている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様、ご家族様の要望、相談は聞き入れ、カンファレンスや、推進会議にてオープンな意見交流を行っている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、提案が取り入れられるよう社内企画が設けてある。ミーティングやセンター会議での討論もある。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	個人別相談や人事考課、日頃の職場環境における相談を受け入れられるようになってきている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内、外での研修案内を掲示、回覧している。スキルアップ等目的ある研修受講のアドバイスや、シフト調整も行っている。		

土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業施設との交流会、研修会を参考にしたりしてサービス向上に務める。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係をできるだけ早く築く為、職員の協力、共有を徹底する。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	把握が困難な場合は、ご家族様や近親者様に拝聴させていただきご本人様の様子を伺う。出来る限りご本人様に何度となく傾聴させて頂いている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一回カンファレンスにて暮らしぶりや身体の変化等を確認し合い現状に合った介助方法を作り上げる。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、気づき、ヒヤリハット報告等朝礼、夕礼の申し送りで共有。会議等で介護計画に加えることも有る。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様との信頼関係を築き、ニーズに正しく対応できるように柔軟な受け止めと職員の個々における暖かみを出している。		

土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所の方々との交流や、ボランティア、介護相談員(行政)認知症カフェでの交流会など、安心な機関を提供している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の意見、希望に合わせている。受診はご家族様にお願いしている。協力医に月2回往診、訪問看護師の来訪で健康管理、指導を頂いている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	介護サマリーと近況報告の提供、入院中もご本人様の状態確認に伺う。ご家族様や担当看護師から状態情報を得て退院後の生活支援方法に繋ぐ。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りの指針を詳細迅速に作成する。ご本人様やご家族様とのやり取りを記録する。ご家族様にはご理解ご協力と共に終末期を施設と一緒に取り組んで頂いている。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の電話連絡、お客様の的確な状態報告、説明が出来るように研修、指導を行っている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練の実施、夜間想定や他の部所との合同訓練。地域での防災訓練は実施されていないが交流の中で災害時の共助については話し合っている。		

土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇をより大切にしている。言葉遣いには職員同士気を付け注意しあっている。研修も数を重ねているが、尊厳に欠けるなれ合いな言葉掛けがあると、その都度注意している。個別で指導することも有る。排泄、入浴は特にプライバシー保護に努める。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を基にしている。困難な場合においては二者選択等出来る範囲で確認している。出来ない方には表情確認で笑顔が引き出せるよう支援している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様のペース、発想を大切に、活動の様子を見守りしている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月末に献立の希望や、行事食について伺い一緒に組み立てていくことが出来る。調理の下拵えや配膳をしてくださったり、食器拭きを一緒に行っている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お客様に応じてカロリーバランス、摂取量、水分量、食事形態、咀嚼嚥下状態の観察確認をする。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯装着されている方には摂食時からの状態を見ながら義歯の不具合がないか、義歯不要の方の歯磨きは適切か、必要に応じて歯科医師や歯科衛生士の介入も有る。(ご家族様に確認後)		

土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別の支援計画により時間を見て誘導させて頂き失禁が減少している。自己にてトイレへ行かれる方にも羞恥心に配慮をして支援等の声掛けをさせて頂いている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ある程度の時間帯を決めているが、出来る限りご本人の意思で入浴有無や、時間帯の希望を伺っている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息は自由にして頂いている。出来る限り身体を動かして頂き、夜間の安眠を取って頂けるようお声掛けしている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋が出るたびに職員は薬情に目を通して、副作用、注意書き等について把握をする。服薬支援は職員2名での確認、症状の変化に注意している。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様の特技や趣味意欲に応じて役割を持って頂いたり、希望にてやりがいのある事(仕事)を伺い一緒に取り組めるようにしたい。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節によって散歩や、ドライブを実施している。ご家族様との外出をされたり、ご家族様の協力も得て出掛けている。		

土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での所持はされていないが、1名の新規入所者様はご本人様の希望で少額であるが所持希望されている。ご家族様承知されている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば手紙や電話連絡もして頂ける環境になっている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝職員による全居室清掃、共有空間の清潔保持に努めている。お客様と一部のフロア清掃も実施して清潔であると感じて頂く。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブル席に自席を設けて思う存分に過ごして頂ける様にしている。工作や作品作りに参加されない方には希望にて同フロアのソファへ移動して頂いている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の見学時に荷物の配置を考えて頂き、使い慣れたタンスや椅子、置物、寝具を活かして頂く。追々持ち込みされ、お仏壇を持ち込みされる。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、浴室等に名前、看板を貼り迷われることの無いようにして、お客様によっては付き添い案内させて頂く。		